

## 第1回臨時幹事会 議事録

文責：祖父江 有祐(筑波大学)

日時：令和3年4月27日 20時～

場所：オンライン開催(zoom を利用)

### 議題

1. インカレ枠振り計算方法の決定
2. 後援申請
3. 理事承認
4. 各部局活動報告

#### 1. インカレ枠振り計算方法の決定

【粟生】 インカレスプリント、ロング、ミドルすべてについて決定する必要がある。特にロングおよびスプリント種目についてはセレクションが開始されることから早めに決定する必要がある。参考とするインカレ本戦の候補は資料にある通り。

【若月】 一旦幹事の皆さんがどのように考えているかを聞いてみたい。zoom のリアクション機能を用いて確認したい。なお、これで決定とするのではなく、後日改めて Google フォームで投票を行う。

【若月】 おおよそ ICS2019 を参照するのが適切という意見で一致している。ICS2020 は予選決勝方式という異例の形での開催、また参加できていない大学も多数あったことから通常通り開催できていた ICS2019 を枠配分の対象大会として指定するのがいいだろうという意見で一致しているだろう。

【若月】 インカレロングについても同様に、現時点での幹事の皆さんの考えを知りたい。

【谷野】 2021年のインカレロングの枠計算については、昨年度の第2回幹事会において議論をし、決を取っているはず。ただし採決の結果を探しているもののそれが見つからない。何かしらの決定を下しているはずということは伝えておきたい。

【若月】 関連する議論についての議事録を探したが見つからないため今回議題として挙げた。確認の必要があるため先にインカレミドルの枠計算について検討したい。

【粟生】 インカレミドルについては開催できる前提でいたため議論はされていない。

【若月】 候補として ICM2018 および ICL2020 が挙げられている。

【粟生】 今年度のインカレロングも考えに含める必要があるだろう。

【若月】 ICM2018、ICL2020、ICL2021 の3候補について、同様に現時点での幹事の皆さんの考えを知りたい。

【若月】 これについては意見が割れているため意見交換をしたい。まずは ICM がいいと考えている技術委員担当理事粟生から意見を伺いたい。

【粟生】 どの選択肢も絶対の正解というわけではないので幹事会内で納得することができることが重要だと思う。その上でなぜ ICM2018 を第一候補にしているかという点、ミドル種目であるのでミドル種目で開催されたインカレの結果に基づくのが適切という結論に昨年至ったので、今年も同様に最後に開催されたインカレミドルである ICM2018 の結果をもとに枠配分を行うのがいいのではないだろうか。

【若月】 ありがとうございます。事実として、今春行う予定だった ICM2020 については ICM2018 の結果を踏まえて枠配分を行っていたという背景がある。ICM2021 についてもそれを引き継ぐという形になる。ICL2020 の意見も聞きたい。

【近藤】 2年前の結果というのはさすがに古すぎるのではないかと思う。種目は異なるものの、より最近である ICL2020 の結果を使用するのが適切なのではないか。

【若月】 2018 年度の結果はさすがに古すぎるといった意見が出るのも当然かなと思います。私からは ICL2021 を参考にしたほうが良いという意見を述べる。ICL2020 か ICM2018 のどちらの結果を用いるかは、直近の実力を反映するか同じミドルディスタンス種目の結果を反映するかの二択だと考えられる。そのように考えると、直近の実力がより正しく反映されるのは ICL2020 よりも ICL2021 なのではないだろうか。つまり直近の実力を反映させるということでインカレロングの成績を、特に無事開催されるのであれば ICL2021 の結果をもとに枠の配分を行うのが適切だと考える。他に何か意見がある人はいるか。

【坂巻】 私も ICL2021 の結果を用いるのが適切だと考える。4 年生が卒業し、加えて昨年度の新歓においてコロナウイルスの影響で入部した新生が少くない大学があるだろう。こういった大学では 2018 年時点の実力に基づいて枠配分がされた場合、与えられた枠に対して出場できる選手が不足するといった可能性も考えられる。したがって ICL2021 の結果を用いて現在の各校の実力を反映させるのがいいのではないだろうか。

【若月】 ほかに何か意見のある方はいないか。

【金澤】 疑問として、今年のインカレロングに基づいて枠配分を行う場合、時間的に問題はないのか。半年前に枠が決定されることで何か不都合は生じないか。

【若月】 各地区学連でセレクションが行われる前に枠の数が確定していれば問題ないと考えている。ICM2020 の枠振り計算の議論の過程で ICL2020 の結果を参照するという決定がされている（実際はこの後 ICL2020 開催の見通しが立たないことから ICM2018 の結果を参照することになった）。したがって同年度のロングの結果をもとにミドルの枠配分をすることは、技術委員会への負担はあるものの、問題はないと考えている。技術委員会の谷川さん、いかがでしょうか。

【谷川】 問題ないだろう。

【金澤】 わかりました。ありがとうございます。

【若月】 ICL2021 については開催が確定していない、参照するレースとして適切な形で開催されるかもわからないという状況である。よって ICL2021 を採用する場合は万が一適切な形での開催がされなかった場合にどうするかということも含めて決定する必要がある。

【浴本】 質問です。ICL2021 が開催できたとして、大学からの制限等で参加校が限られた場合はどうするか。

【若月】 ICL2021 を枠計算で参照する場合は「適切な形で開催されたら」という条件が付随すると考える。

【粟生】 「参照できるかできないか」については ICL2021 開催後に決定するという事か。その場合より時間的な余裕がなくなると考えられるが。

【谷野】 昨年の場合、翌年(2021)の ICL の枠振り方法についてはギリギリまで判断を待ち、その上で ICL2020 開催直前に ICL2020 の結果を用いるという決定を下した。こういった過去があることは伝えておきたい。

【若月】 先ほどの ICL の枠振りについては ICL2020 を参照するという決定がされていたということで進めましょう。ICM2021 の話に戻すと、枠の割り振りについてはギリギリまで判断を粘ることも現実的に可能であると言える。

【粟生】 基本的には ICL の結果が ICM の枠振りに影響することを伝えておき、但し書きとして ICL が適切に開催された場合として周知するという事か。

【若月】 そうです。もし ICL2021 を参照するのであれば、こういった条件で ICL2021 の結果が参照されるのかをフローチャートなどで示し、また不適切となった場合に何を参照するかといったことを事前に周知することになるだろう。

【若月】 ミドルに関しては決定を急ぐ必要はないと思うので今日参加できていない幹事も含めて 6 月の幹事会で最終的な方針の決定をし、その上で ICL2021 を迎えるというように進めるのがいいだろう。

【若月】 ICL については幹事会ですでに決定していたということなので再度競技者の皆さんにお知らせするという形で、ICS についてはまだ議論がされていなかったため幹事会で投票し承認するという形で 4 月中に結論を出す。その上で技術委員会に枠振り計算をお願いし、各地区学連に伝えるという流れになる。

## 2. 後援申請

【金澤】 先月末に東大 OLK 大会に関して後援申請書が届いた。提出締め切りを過ぎていくこと以外には問題点はないと思われる。これについて何か議論したいことがある人などいるか。

【若月】 大丈夫だろう。6 か月前という規定があるということですね。

【金澤】 その通りである。ただし今回はコロナウイルスの関係でテレイン確定に時間がかかったとのことで、やむを得ない事情であると言える。後援申請には明確な判断基準があるわけではないが、日本学園として後ろ盾になることが認められるかどうかを判断してもらえれば。

【若月】 特に質問等無ければ Google フォームで承認の採決を取ります。Slack で東大 OLK の衣笠君が補足していたが、自治体からの後援も得られているとのことなので特に問題は

ないだろう。

### 3. 理事承認

【若月】 日本学連には理事会というものがあり、理事長、理事、幹事長から構成されている。今年度から新しく理事が加わり、その承認は幹事会で行うと規約で定められているためこの場で議題とした。4月から新しく理事に就任するのは、昨年幹事長を務めた谷野さんである。一言なにかあればお願いします。

【谷野】 日本学連の理事として、JOA と日本学連の連携役を、また理事の中で最も若く学連について知っていることもあると思うのでいつでも頼ってほしい。

【若月】 谷野さんの理事承認についても後程 Google フォームを流す。